



大阪府病院協会70年史



一般社団法人
大阪府病院協会

大阪府病院協会70年史

目 次

大阪府病院協会70年史 巻頭言	
大阪府病院協会会長 木野 昌也	1
大阪府病院協会 歴代会長	2
大阪府病院協会歴代正副会長一覧	4
歴代会長からのメッセージ	
社会医療法人大道会会長 大道 學	8
社会医療法人きつこう会会長 小川 嘉誉	10
社会医療法人生長会 ベルランド総合病院名誉院長 福原 毅	12
八尾市立病院特命総長 佐々木 洋	13
大阪府病院協会の歩み	15
平成7年(1995)～令和6年(2024)	
勲章及び褒章受章者一覧	25
大阪府病院協会の歴史	26
大阪府病院協会看護専門学校	27
大阪府病院協会 創立70周年 大阪府私立病院協会 創立50周年 合同記念式典・記念講演・祝賀会	29
大阪府病院協会役員名簿	50

大阪府病院協会70年史 巻頭言

大阪府病院協会会長 木野 昌也



大阪府病院協会は2025年に創立70周年を迎えることになりました。我々病院がこれまでに歩んできた道は、決して平坦なものではありませんでした。世界中を巻き込んだコロナパンデミックへの対応、厳しい医療費抑制政策の下、度重なる病院医療崩壊の危機、医師や看護師、その他医療専門職の不足、地域医療構想や医師の働き方改革への対応等、息づく暇なく押し寄せてくる課題に必死に対応してまいりました。そのような厳しい経営環境の中にあっても、大阪府下の病院は様々な難局を見事に克服し、地域医療の発展と質の担保に貢献して参りました。歴代の会長、副会長、役員をはじめ会員病院の皆様のこれまでのご尽力に敬意を表したいと思います。

当協会は昭和30年（1955年）に任意団体として設立され、昭和45年に社団法人に改組。そして平成25年に一般社団法人として認定され現在に至っています。大阪府病院協会の活動は、大阪府民に対して安心、安全な医療を提供するだけでなく、社会的共通資本としての医療を確保することで府民の生活基盤となるものです。我々がこれからも引き続き社会における責任を果たしていくためには、病院協会の活動はもとより、会員病院個々の努力が不可欠です。そして何より、政治、行政はじめ、医師会や薬剤師会、歯科医師会や看護協会等、すべての医療関係団体と府民のご理解とご支援が必要です。大阪府私立病院協会や大阪府医療法人協会、その他、日本病院会や全日本病院協会、日本医療法人協会や、その他、多くの病院団体との緊密な連携もなくてはならないものです。この目的の実現のためには、大阪府病院協会の活動の透明性を確保し、広く社会に周知していかなばなりません。当協会の活動は創立40周年史として記録に残っておりますが、その後の30年間の活動をまとめるとともに、創立50周年を迎えた大阪府私立病院協会と合同で開催した合同記念式典・記念講演・祝賀会の記録、そして歴代会長からのメッセージも掲載させていただきました。

現在はICT（情報通信技術）の時代です。インターネットを通じて、いつでもどこでも閲覧できるよう、従来の紙媒体ではなく、大阪府病院協会のホームページの中で創立70周年記念史を発行し、掲載することといたしました。この記念史が大阪府における病院活動を広くご理解いただける一助となりますことを祈念しております。

大阪府病院協会 歴代会長



初代
佐谷 有吉 会長
(1955~1957)



2代
小澤 凱夫 会長
(1957~1967)



3代
王子 喜一 会長
(1967~1972)



4代
野木 一雄 会長
(1972~1975)



5代
内藤 景岳 会長
(1975~1980)



6代
河崎 茂 会長
(1980~1988)



7代
福田 耕作 会長
(1988~1990)



8代
岸口 繁 会長
(1990~1994)



9代
武田 惇 会長
(1994～1996)



10代
大道 學 会長
(1996～2000)



11代
滝 一郎 会長
(2000～2004)



12代
小川 嘉誉 会長
(2004～2008)



13代
今岡 真義 会長
(2008～2012)



14代
川合 弘毅 会長
(2012～2014)



15代
福原 毅 会長
(2014～2018)



16代
佐々木 洋 会長
(2018～2022)



17代
木野 昌也 会長
(2022～)

■ 大阪府病院協会歴代正副会長一覧

大阪病院協会設立 昭和30年12月 6日
 大阪府病院協会改称 昭和36年 4月 1日
 社団法人大阪府病院協会認可 昭和45年11月 1日

役職名	氏 名	病院名・役職名	任 期
理 事 長	佐 谷 有 吉	国立大阪病院長	昭和30年12月6日～ 昭和32年4月20日
副理事長	宇 山 安 夫	大阪大学医学部附属病院長	
〃	小 澤 凱 夫	大阪府立病院長	
理 事 長	小 澤 凱 夫	大阪府立病院長 大阪労災病院長	昭和32年4月21日～ 昭和36年3月31日
副理事長	野 崎 道 郎	外科野崎病院長	
〃	菊 池 二 郎	大阪回生病院長	
会 長	小 澤 凱 夫	大阪府立病院長 大阪労災病院長	昭和36年4月1日～ 昭和39年3月31日
副 会 長	野 崎 道 郎	外科野崎病院長	
〃	菊 池 二 郎	大阪回生病院長	
会 長	小 澤 凱 夫	大阪労災病院長	昭和39年4月1日～ 昭和41年5月31日
副 会 長	王 子 喜 一	市立堺病院長	
〃	菊 池 二 郎	大阪回生病院長	
会 長	小 澤 凱 夫	大阪労災病院長	昭和41年6月1日～ 昭和42年7月27日
副 会 長	王 子 喜 一	市立堺病院長	
〃	菊 池 二 郎	大阪回生病院長	
〃	吉 田 常 雄	国立大阪病院長	
会 長	王 子 喜 一	市立堺病院長	昭和42年7月28日～ 昭和43年3月31日
副 会 長	菊 池 二 郎	大阪回生病院長	
〃	吉 田 常 雄	国立大阪病院長	
会 長	王 子 喜 一	市立堺病院長	昭和43年4月1日～ 昭和47年3月31日
副 会 長	菊 池 二 郎	大阪回生病院長	
〃	野 木 一 雄	大手前病院長	
〃	吉 田 常 雄	国立大阪病院長	
会 長	野 木 一 雄	大手前病院長	昭和47年4月1日～ 昭和50年5月14日
副 会 長	内 藤 景 岳	南大阪病院長	
〃	河 崎 茂	水間病院長	
〃	林 秀 雄	八尾市立病院長	

役職名	氏 名	病院名・役職名	任 期
会 長	内 藤 景 岳	南大阪病院長	昭和50年5月15日～ 昭和51年3月31日
副 会 長	河 崎 茂	水間病院長	
〃	林 秀 雄	八尾市立病院長	
会 長	内 藤 景 岳	南大阪病院長	昭和51年4月1日～ 昭和53年3月31日
副 会 長	河 崎 茂	水間病院長	
〃	矢 野 尾三郎	天王寺病院長	
〃	吉 岡 観 八	新千里病院長	
会 長	内 藤 景 岳	南大阪病院長	昭和53年4月1日～ 昭和55年3月31日
副 会 長	河 崎 茂	水間病院長	
〃	吉 岡 観 八	新千里病院長	
〃	福 田 耕 作	市立吹田市民病院長	
会 長	河 崎 茂	水間病院長	昭和55年4月1日～ 昭和61年3月31日
副 会 長	吉 岡 観 八	新千里病院長	
〃	福 田 耕 作	市立吹田市民病院長	
〃	有 澤 源 藏	有澤総合病院長	
会 長	河 崎 茂	水間病院長	昭和61年4月1日～ 昭和63年3月31日
副 会 長	福 田 耕 作	市立吹田市民病院長	
〃	有 澤 源 藏	有澤総合病院長	
〃	武 田 惇	大阪府済生会泉尾病院長	
会 長	福 田 耕 作	市立吹田市民病院長	昭和63年4月1日～ 平成2年3月31日
副 会 長	武 田 惇	大阪府済生会泉尾病院長	
〃	岸 口 繁	生長会理事長	
〃	大 道 學	大道病院長	
会 長	岸 口 繁	府中病院理事長	平成2年4月1日～ 平成4年3月31日
副 会 長	大 道 學	大道病院長・理事長	
〃	武 田 惇	大阪府済生会泉尾病院長	
〃	富 田 和 義	新千里病院長	
会 長	岸 口 繁	府中病院理事長	平成4年4月1日～ 平成6年3月31日
副 会 長	武 田 惇	大阪府済生会泉尾病院長	
〃	大 道 學	大道病院長・理事長	
〃	辻 本 兵 博	愛染橋病院名誉院長	

役職名	氏 名	病院名・役職名	任 期
会 長	武 田 惇	大阪府済生会泉尾病院長	平成6年4月1日～ 平成8年3月31日
副 会 長	大 道 學	大道病院長・理事長	
〃	辻 本 兵 博	愛染橋病院名誉院長	
〃	中 後 勝	医療法人愛仁会理事長	
会 長	大 道 學	大道病院理事長	平成8年4月1日～ 平成10年3月31日
副 会 長	滝 一 郎	大阪警察病院名誉院長	
〃	中 後 勝	愛仁会理事長	
〃	松 田 晉	北野病院常任顧問	
会 長	大 道 學	大道病院理事長	平成10年4月1日～ 平成12年3月31日
副 会 長	滝 一 郎	大阪警察病院名誉院長	
〃	小 川 嘉 誉	総合病院多根病院長	
〃	岡 村 純	大阪通信病院名誉院長	
会 長	滝 一 郎	大阪警察病院名誉院長	平成12年4月1日～ 平成14年3月31日
副 会 長	小 川 嘉 誉	総合病院多根病院長	
〃	岡 村 純	NTT西日本大阪病院名誉院長	
〃	川 合 弘 毅	若草第一病院理事長	
会 長	滝 一 郎	大阪警察病院名誉院長	平成14年4月1日～ 平成16年3月31日
副 会 長	小 川 嘉 誉	総合病院多根病院長	
〃	岡 村 純	NTT西日本大阪病院名誉院長	
〃	川 合 弘 毅	若草第一病院理事長	
会 長	小 川 嘉 誉	総合病院多根病院長	平成16年4月1日～ 平成18年3月31日
副 会 長	森 本 靖 彦	愛染橋病院長	
〃	川 合 弘 毅	若草第一病院理事長	
〃	今 岡 真 義	大阪府立成人病センター総長	
会 長	小 川 嘉 誉	総合病院多根病院長	平成18年4月1日～ 平成20年3月31日
副 会 長	森 本 靖 彦	愛染橋病院名誉院長	
〃	川 合 弘 毅	若草第一病院理事長	
〃	今 岡 真 義	大阪府立成人病センター総長	
会 長	今 岡 真 義	大阪府立成人病センター名誉総長	平成20年4月1日～ 平成22年3月31日
副 会 長	川 合 弘 毅	若草第一病院理事長	
〃	山 岡 義 生	北野病院長	
〃	福 原 毅	ベルランド総合病院理事長	

役職名	氏 名	病院名・役職名	任 期
会 長	今 岡 真 義	NTT西日本大阪病院長	平成22年4月1日～ 平成24年3月31日
副 会 長	川 合 弘 毅	若草第一病院理事長	
〃	本 田 孔 士	大阪赤十字病院名誉院長	
〃	福 原 毅	ベルランド総合病院会長	
会 長	川 合 弘 毅	若草第一病院理事長	平成24年4月1日～ 平成26年6月11日
副 会 長	福 原 毅	ベルランド総合病院会長	
〃	大 口 善 郎	大手前病院長	
〃	佐々木 洋	八尾市立病院長	
会 長	福 原 毅	ベルランド総合病院会長	平成26年6月12日～ 平成28年6月8日
副 会 長	大 口 善 郎	大手前病院長	
〃	木 野 昌 也	北摂総合病院理事長	
〃	佐々木 洋	八尾市立病院総長	
会 長	福 原 毅	ベルランド総合病院会長	平成28年6月9日～ 平成30年6月13日
副 会 長	大 口 善 郎	大手前病院長	
〃	木 野 昌 也	北摂総合病院理事長	
〃	佐々木 洋	八尾市立病院総長	
会 長	佐々木 洋	八尾市立病院総長	平成30年6月14日～ 令和2年6月9日
副 会 長	今 井 康 陽	市立池田病院総長	
〃	木 野 昌 也	北摂総合病院理事長	
〃	山 本 時 彦	山本第三病院理事長	
会 長	佐々木 洋	八尾市立病院特命総長	令和2年6月10日～ 令和4年6月7日
副 会 長	今 井 康 陽	市立池田病院総長	
〃	木 野 昌 也	北摂総合病院理事長	
〃	山 本 時 彦	山本第三病院理事長	
会 長	木 野 昌 也	北摂総合病院理事長	令和4年6月8日～ 令和6年6月11日
副 会 長	山 本 時 彦	山本第三病院理事長	
〃	宮 本 裕 治	大手前病院長	
〃	矢 野 雅 彦	市立吹田市民病院理事長	
会 長	木 野 昌 也	北摂総合病院理事長	令和6年6月12日～ 令和8年6月 定時総会の日
副 会 長	山 本 時 彦	山本第三病院理事長	
〃	宮 本 裕 治	大手前病院長	
〃	大 道 道 大	森之宮病院理事長	

歴代会長からのメッセージ



■ 記憶に残るアメリカ医療の視察

大阪府病院協会名誉会長
社会医療法人大道会会長
大道 學

大阪府病院協会がめでたく創立70周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

昭和47年（1972）の野木一雄会長のときに理事を仰せつかり、30年間もの永きにわたり大阪府病院協会の役員を務めさせていただきました。その内の平成8年（1996）4月から2期4年は会長として務めさせていただきました。

私は97歳になりますので曖昧な記憶となりますが、当時の役員の皆様とよく勉強したことを思い出します。

昭和61年（1986）に厚生省の医業経営の近代化に関する懇談会委員、平成元年（1989）に医療審議会委員、平成8年（1996）には医業経営と患者サービスの向上に関する委員会の委員などを拝命していたのですが、会議が終わって大阪に戻りますと役員の先生方が、いち早く中央の情勢を知りたいとお集まりになり、時間を忘れて情報交換を行なったことが思い浮かびます。今とは違って、分厚い紙の資料を持ち帰り、皆で熱心にその資料を読み解き、喧々諤々の議論を行っていました。そのようなことを通じて、より親密になり連携と協調が図られたことと思います。

もう一つの思い出は、アメリカ医療の視察です。米国医療の重要性を学ぶために親友の大浜方栄参議院議員（※1）の勧めで、日本大学教授の大道久先生（※2）と私の3人でアメリカ医療の視察を行い、実態を知ることができました。その後、昭和61年（1986）7月に大阪府病院協会・大阪府私立病院協会の後援を得て、私が団長となり、きつこう会の多根要之助先生、愛仁会の中後勝先生、多根総合病院の海北幸男事務長、当法人の天野など25名の参加を得て、「アメリカ医療の近況視察」を実施しました。視察のポイントとしたのは、①DRGをめぐる病院の対応、②PROによる医療審査の実体、③公的保障・メディケアの行方、④低医療費、低コスト保障 HMO/PPOの実体、⑤中間施設と在宅看護の実体、⑥米国

医師の活動状況とし、帰国後には163ページからなる視察報告書を取りまとめ、内外に供しました。

アメリカの医療費抑制政策や開業医と病院の連携、入院患者の減少、早期退院と在宅看護の連携などの実態を視察できたことは、病院を運営している者にとって役に立つ事例ばかりでした。単なる視察に終わるのではなく、報告書をまとめたのは意義のあることであったと改めて感じています。

当時は、アメリカに追いつき追い越せという発想がありました。けれども、今の日本は世界に例がない超高齢・少子社会を迎えており、日本独自の医療政策が必要になります。大阪府病院協会は、日本の医療をリードする専門団体の一つです。新しい発想で今後とも国民のための医療政策を提言されるよう期待しています。

※1 大浜方栄先生：医療法人/社会福祉法人/学校法人 おもとグループ（元）理事長
沖縄県医師会（元）会長

※2 大道 久先生：日本大学名誉教授



■ 医療崩壊からの脱出

大阪府病院協会名誉会長
社会医療法人きつこう会会長

小川 嘉誉

昭和62年（1987）に27年間の阪大病院の勤務を終え、民間の多根総合病院の院長に就任し、その翌年、当協会の理事になった。

当協会の副会長としては、平成10年（1998）～平成12年（2000）・大道學會長のもとで、平成12年（2000）～平成16年（2004）は滝一郎会長のもとで活動させていただいた。そして、平成16年（2004）4月1日に会長に就任し、それから2期務めさせていただいた。

今回、会長在任期間中に最も印象に残っている出来事について執筆せよとの事ですが、20世紀から21世紀への転換期で、国内でも世界でもあまりにも多くの出来事があり、会長職後の背景も同時に知らないと理解しにくい。【表1】

まず、小泉内閣による医療費抑制策に、医師臨床研修の義務化による医師不足が重なった結果、医療崩壊という言葉が医療界を風靡した時に会長に就任した。

さて、会長としてこの課題にどう対応すべきか、早期に解決できる回答は具体的に何もなかった。ただ、いえることは、一政治家の一声で医療制度改革や診療報酬改定が左右されることはあってはならないことは明らかである。その為には、まず医療人の団結が必要で、現状の情報を十分に分析し、政策提言を行い、国民が納得する政策を行うべきである。

当協会は、公的、私的病院を含んだ団体であり、多くの点で異なった背景を持っているが、どちらかといえば、医療の質の維持、向上に重点をおいた政策提起が出来ればと考えた。そして、これまで以上、私病協、医師会、その他の関係諸団体との関係を密にすべきと考え、活動したつもりである。【表2】

これまで診療報酬のアップを求めることはもちろん続けられたが、必ずやってくる高齢、少子化時代をきちんと把握した将来を見つめた社会保障像の議論が十分なされていなかった。それが、社会保障国民会議報告がなされ、社会保障と税の一体改革を含めて国民の多くの理解を得、10年振りのプラス改定でひとまず医療崩壊から脱出できた感があった。ただ、この流れにも民主党の野田首相の声が大きく関与した。この様に個人の考え方が良い様に働

く場合もあった。これで私の会長時代の活動は終わったが、まず、医療人の団結、正確な情報提出、将来像に基づいた政策提言など政治を動かす体制が必要だと感じた。

ただ、昨今の病院経営状況をみるとインフレ時代の対応は、あまりこれまで考慮されていない。「社会保障と税の一体改革」をまとめられた権丈教授が「税と社会保険料は“悪”」に危機感と発言しておられるのには、私も同感で、また同じ事を繰り返すのかと思いたくなる今頃です。

【表1 副会長・会長時代周辺の主な出来事】

副会長		
	医療制度	社会情勢
平成12年 (2000)	介護保険導入 第4次医療法改正	医師法改正 (臨床研修必須 他)
平成13年 (2001)		小泉内閣誕生 「聖域無き構造改革」 同時多発テロ(ニューヨーク)
平成14年 (2002)	診療報酬 改定 (マイナス2.7%) 史上初の本体マイナス改定	イラク戦争
平成15年 (2003)	医療提供体制の 改革の基本的な方法 被用者本人 3割負担 介護報酬 マイナス2.3%	
会長		
	医療制度	社会情勢
平成16年 (2004)	病床区分届出法 (一般病床 療養病床) 植松日医会長 当選 医師臨床研修の義務化 診療報酬改定(本体±0%) 中医協改革	医療崩壊 医療費抑制 医師不足
平成18年 (2006)	最大マイナス改定 診療報酬 -3.16% 介護報酬 -2.4% 医療制度改革大綱	
平成20年 (2008)	後期高齢者医療制度 診療報酬改定 -0.82% 社会保障国民会議報告	バラク・オバマ大統領 就任 民主党政権交代
平成21年 (2009)		世界金融危機 (リーマンショック)
平成22年 (2010)	診療報酬改定 +0.19% 10年ぶりのプラス改定	
平成23年 (2011)	社会保障と税の一体改革 (2014年 消費税 8%) (2015年 消費税 10%)	東日本大震災 野田佳彦 内閣
平成24年 (2012)		12月16日 衆議院選挙 12月26日 第2次安倍晋三 内閣

【表2 会長時代の主な事業】

平成17年 (2005)	10月2日 第13回 大阪病院学会 国民に理解され支持される病院
平成18年 (2006)	大阪府病院協会 創立50周年 大阪府私立病院協会 創立30周年 } 同時開催
平成19年 (2007)	そのままでは壊されてしまう日本医療 大阪府民集会
平成20年 (2008)	1月29日 社会保障国民会議 第1回会合 (座長 吉川 洋)
	7月26日 医療崩壊を阻止する大阪府民集会
	8月7日 病院長・幹部職員セミナー アルカディア市ヶ谷 私学会館 「医療崩壊から再生へ」～その道のりを探る～ シンポジウム「医療再生へ向けての処方せん」
	11月4日 社会保障国民会議 最終報告



■ 会長在位期間中の印象に残ること

大阪府病院協会名誉会長
社会医療法人生長会
ベルランド総合病院名誉院長
福原 毅

会長在任は2014年（平成26年）から2018年（平成30年）までの2期4年であった。その間の最も印象に残っているのは、医療提供体制を変化させようとする動きである。団魂の世代が全て後期高齢者となる2025年の医療、介護の在り方についての議論が盛んに行われていた。少子高齢化、人口減少社会への急速な進行は、わが国の社会環境、経済や社会保障に深刻な影響を及ぼしかねないと懸念され、2025年問題の解決が急務とされていた。法律の整備も一挙に進んだ。

2014年（平成26年）第6次医療法改正が施行された。

- ・病床機能報告の創設
- ・医師、看護師勤務環境改善（これが後には働き方改革になる）
- ・地域医療構想の策定 などが含まれる。

その他に

- ・医療介護総合確保推進法
- ・病床機能報告制度策定 なども成立した。

2015年（平成27年）地域医療構想策定ガイドラインが公表された。それによりまずは病床機能報告が始まった。

国の方針に則り、大阪府でも大阪府医療計画、地域医療計画などがまとめられた。

病床機能報告制度に加えて地域医療構想調整会議、二次医療圏毎に保健医療協議会などの会議体が組織され議論が始まった。

さらに医療、介護を含めた地域包括ケアシステムとしての概念が確立された。

大阪府では2025年の必要病床数は、既存病床数を大きく上回る見込みであり、約1万床不足するとの推計がなされた。

地域医療構想調整会議、病床機能懇話会で病床機能の検討、各圏域における医療機関が担う機能が検証された。しかし、自主的な病床転換の議論には至らなかった。病床機能については、大阪アプローチにより構想を推進していくことが決定された。

地域医療構想を中心に病床機能の分化連携のもと医療提供体制の大変革が始まった4年間であった。



■ 会長時代を振り返って

大阪府病院協会名誉会長
八尾市立病院特命総長

佐々木 洋

2012年に川合会長（当時）の下で2年間、さらに2014年から福原会長（当時）の下で4年間、計6年間副会長を務め、その後2018年から4年間会長を務めさせていただきました。

会長に就任した2018年ごろは、病院関連3大テーマである①地域医療構想、②勤務医の働き方改革、③医師偏在の是正、のうち、地域医療構想は、各2次医療圏での医療・病床懇話会や病院連絡会の第1ラウンドがほぼ終了し、本格的な議論が始まろうとしている時で、勤務医の働き方改革、医師偏在の是正、は議論が始まったばかりという感じでした。特に地域医療構想に関しては、地域医療調整会議などで、多くの議論に参加させていただき、また、地域医療構想アドバイザーを仰せつかるなど、色々勉強させていただきました。

会長就任後、①多くの会員に興味をもって読んでいただけるように「大阪府病院協会ニュース」の内容の充実〔論説、リレー随筆、病院紹介(これらは副会長時の企画)や、在米日本医師のコロナパンデミック時のニューヨークでの医療崩壊のリアルなレポートの臨時掲載、など〕、②会員名簿の作成、③臨時総会や総会後の、会員の先生方を対象とした特別講演（専門医機構副理事長の兼松孝之先生、厚労省医務技監の鈴木康裕先生、旭川赤十字病院の牧野憲一先生等）と意見交換会の設定、④理事間のコミュニケーションを図った夏の太閤園での納涼懇親会（③④は、コロナのために中断）、⑤大阪府の医療行政の担当者を理事会に招き、コロナ対策や地域医療構想など最新の情報を報告いただき、議論する場を設定、⑤私立病院協会との共同で、会員病院のコロナによる経営状態悪化の現状をアンケート調査し、調査報告書を作成し、協会ニュースに掲載すると共に、大阪府知事に要望書を提出、など色々知恵を絞って新しい企画を試みました。

しかし、私が在任中で最も印象深い出来事はなんといってもコロナ感染症です。特に、後半の2年ほどは、ほとんどがコロナ対策に追われ、大変忙しい思いをしました。大阪府新型コロナウイルス対策本部専門家会議や、大阪府新型コロナウイルス感染症対策協議会の委員を拝命し、多くの会議への出席もさることながら、短時間での意見書の提出を求められ、夜中遅くまで意見書を作成したことも、今となっては貴重な思い出です。2021年4月～5月のGWごろの第4波時には、コロナ重症患者が急増し、確保病床のキャパを超えてしまい、多

くの患者が入院できない事態に陥り、自宅待機中に死亡する患者が発生するなど、まさに医療崩壊に片足を突っ込んだ状況になりました。この時は、コロナ患者の病床確保のために、大阪府病院協会もその一翼を担いました。また、大阪府でのコロナの感染のまん延状況や医療現場における緊迫した状況に関して、マスメディアからの出演依頼も多くありました。何とか大阪のコロナ医療のひっ迫状況を多くの人に伝えたいと思って、できる限り出演しました。良くも悪くも、色々な反響があり、これも大変貴重な思い出です。コロナを契機に大阪府病院協会の存在意義や注目度は以前より増し、活動範囲も広がったと思います。

大阪府や医師会の多種の委員会や審議会に参加させていただき、個人的には、多数の新しいことを学ばせていただき、大変充実した実りある4年間でありました。

大阪府病院協会の歩み

平成7年(1995)～令和6年(2024)

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
1995年 平成7年	1.17 阪神淡路大震災で私病協との合同緊急正副会長会議(1/17、1/19、1/23)。 1.20 私病との合同理事会。救護体制の構築を検討。 1.22 被災患者受入と医療救護班編成リストを作成。 1.25 知事より医療救護班の派遣要請あり。 1.26 東灘区の御影高校と魚崎小学校に24時間体制で救護班を派遣開始。 2.23 病院倫理に関する研修会。 3. 1 兵庫県病院協会と兵庫県私立病院協会に義援金を謹呈。 3. 9 病院に対する医事紛争研修会。 4.28 新入職員研修会。 6. 1 看護に関する研修会。 6. 7 社保診療報酬に対する消費税の0%課税を要望。 8.10 病院経営管理に関する研修会。 8.31 看護専門学校の増築工事及び震災復旧工事完了。 7.17 第8回大阪病院学会「医療変革と病院の再生」。 10.27 創立40周年記念式典と祝賀会举行。 11. 9 母子医療に関する研修会。	1.17 阪神淡路大震災(午前5時46分)。 3.20 地下鉄サリン事件。 4. 9 東京で青島幸男、大阪で横山ノックが知事に当選。 5.17 厚労省が准看護師養成所に、いわゆる「お礼奉公」などの就労の適正化を求める通知を发出。 7.23 参議院選挙、自民の当選者が46名に減少。比例区で武見敬三が当選。 8. 8 村山改造改革が発足、厚相は社会党の森井忠良が就任。 9.15 朝日新聞が「准」看護師の養成をやめよ、とする社説を掲載。 10. 6 エイズ薬害訴訟で東京・大阪両地裁が和解勧告。 11.30 厚生省統計情報部が阪神淡路大震災の死亡者は5,488人と公表。死因としては、「窒息・圧死」が全体の77%を占めると。 12.22 総務庁が平成7年国勢調査速報をまとめる。10月1日現在の総人口は、1億2,557万人と。
1996年 平成8年	1.30 病院機能評価に関する研修会。 2.12 創立40年史を発刊。 3.21 改定保険点数に関する説明会。 4.18 病院における医事紛争研修会。 6. 4 新入職員研修会。 9. 5 国民の医療と福祉を守る大阪集会。 9. 7 医療制度勉強会。 10. 3 医療危機突破近畿医師会連合総決起大会。 10.25 診療報酬研修会。 11.14 看護に関する研修会。 12.16 訪問看護に関する公開講座。	1.11 村山内閣総辞職。橋本龍太郎内閣が発足、厚相に菅直人。 2.16 菅直人厚相が薬害エイズ問題で血友病患者に謝罪。 4. 1 日本医師会会長に坪井栄孝が就任。 4. 1 診療報酬改定。本体+3.4%、薬価△。包括支払制の拡大(国立病院等で1日定額方式の試行導入)。 10.20 衆議院選挙。 11. 7 第2次橋本内閣発足、厚相は小泉純一郎が就任。
1997年 平成9年	2. 8 最近の医療事情についての勉強会。 3.21 診療報酬改正点数に関する説明会。 3.27 病院における医事紛争研修会。 4. 1 病院協会事務所を現在の天王寺区六万休町に移転。 4.15 米国の医療事情についての講演会。 7. 2 病院経営に関する研修会。 7.16 働く女性のための研修会「ジャーナリスト大宅映子氏講演会」。 9. 3 健康保険法等9月改正に関する説明会。 9.18 病院経営に関する研修会。 10.12 第9回大阪病院学会「少子・高齢時代のヘルスケアリフォーム」。 11.17 介護保険制度に関する研修会。 12.16 看護に関する研修会。	4. 1 消費税が3%から5%に引き上げ。 4. 1 消費税引き上げに伴う診療報酬改定(臨時特例的改定)。消費税引き上げ分0.77%。 4. 日医総研が活動を開始。 9. 1 健保本人の負担が1割から2割に。老人の外来負担も引き上げ。 9.11 第3次橋本改造内閣発足、厚相は小泉純一郎が継続。 9.19 中医協が原則公開を決定。 11.22 山一証券破綻。 12. 9 医療法改正成立。「患者への説明と同意」条項、地域医療支援病院制度の創設など。

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
1998年 平成10年	2. 9 病院経営に関する研修会。 2.10 私病と合同で、「医療対策審議会」対策検討合同委員会を設置。急性期・慢性期療養ベッド数対策を検討。 3.23 診療報酬改正点数に関する説明会。 4. 健保法改正による外来患者数影響調査の結果を報告。私的病院は患者数増32%、患者数減68%。公的病院は患者数増61%、患者数減39%。 5.15 保険診療に関する講習会。 5.23 病院給食の院外調理と危機管理に関する勉強会。 5.24 医療法改正に関する研修会。 5.28 DRGに関する勉強会。 5.30 今後の看護行政に関する研修会。 6.16・18 新入職員研修会。 10. 1 病院における医事紛争研修会。 10. 5 高齢者ケアシステムセミナー。 10.19 病院経営に関する研修会。 12.16 病院環境に関する研修会。	4. 1 診療報酬改定。本体+1.5%、薬価△2.8%、計△1.3%。医療費の縮減策に薬価が組み込まれ、診療報酬改定財源に振り替えられなくなる。長期入院の是正と検査・画像診断の適正化。高齢者の6か月を超える一般病床への入院に包括点数が新設。 6.10 厚生省が急性期入院医療定額払い方式試行のための診断群分類、183分類を中医協に報告。 7.12 参議院選挙で日本医師連盟推薦の宮崎秀樹が落選。 7.30 小渕恵三内閣が発足、厚相は宮下創平。 9.18 中医協総会、国立病院等を対象とした急性期入院医療定額払い方式試行(11月1日実施)を答申。 11. 1 国立仙台病院など10県10病院で急性期入院医療定額払い方式の試行開始(国立病院8、社会保険病院2)。
1999年 平成11年	3. 8 医療経済に関する研修会。 3.12 看護婦等雇用管理者研修会。 5. 「HOS・MAP99」を発刊。 5.20 病院経営に関する研修会。 5.27、6.3 新入職員研修会。 6.24 大阪府の救急医療体制整備に関する説明会。 6.30 脳死心臓移植特別研修会。 7.15 大阪府医療関係団体・人権問題等検討委員会発会式。 7.17 医療保険制度に関する講演会。 7.31 病院経営に関する研修会。 9. 4 医療制度に関する講演会。 10. 3 第10回大阪病院学会「医療ビッグバンー保健・医療・福祉の新たな分化和連携ー」。 10. 4 バルプロ・バック・フリス氏の特別講演会「最新のスウェーデン事情」。 10.14 医療機関におけるコンピュータ西暦2000年問題講演会。 10.23 介護保険制度に関する講演会。 10.30 病院環境に関する研修会。 11.13 中小病院情報交換会。 12. 大阪府病院協会ニュース発刊350号。 12.13 診療情報の提供に関する病院研修会。	1.14 小渕改造内閣発足、厚相は宮下創平が継続。 2.28 臓器移植法に基づく初めての脳死臓器移植が行われる。 4. 日医が「診療情報の提供に関する指針」を医師が順守すべき倫理規範として制定。 4.13 自民党医療基本問題調査会・社会部会合同会議が薬剤定価・給付基準額制(日本型参照価格制度)の導入を撤回。 6.11 合計特殊出生率が1.38、肺がんによる死亡数が胃がんを抜く。 7. 3 労働白書が発表され、「医療・福祉分野」を雇用創出効果が高いことが見込まれると指摘。 8. 9 日の丸を国旗、君が代を国歌とする国旗・国歌法が成立。 10. 5 自民・自由・公明3党の連立政権による小渕第2次内閣が発足、厚相は丹羽雄哉が再任。 11.26 予防接種集団訴訟が大阪訴訟和解で集結。 12. 横山ノック大阪府知事がわいせつ事件で引責辞任。
2000年 平成12年	1.25 病院環境に関する研修会。 3.28、30 診療報酬改定点数に関する説明会。 4. 1 大阪社会保険事務局がスタート。 5.19 新入職員研修会。 5.20 「チーム医療」実践セミナー。	4. 1 介護保険制度スタート。 4. 1 診療報酬改定、医科1.9%、薬価△1.7%、計0.2%。大病院の外来に紹介制、入院基本料の新設。 4. 1 自公が自由党との連立を解消。 4. 2 小渕首相が脳梗塞で入院。

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
2000年 平成12年	6.29 医療機関におけるリスクマネジメントに関する研修会。 7. 3 医療オンブズマンに関する研修会。 7.31 診療報酬改定に関する研修会。 8.24 Day Surgeryに関する研修会。 9.28 院内感染防止対策に関する研修会。 11.10 診療情報の提供に関する研修会。 11.16 人権啓発リーダー養成のための人権研修会(第1期)。 11.30 医事紛争の発生と予防に関する研修会。 12.9、10 大病協看護専門学校未入学者研修講座。 12.10 診療情報の提供に関する研修会。	4. 5 第1次森喜朗内閣が発足、厚相は丹羽雄哉が継続。 7. 4 第2次森内閣が発足、厚相は津島雄二が就任。 7.28 日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会による「四病院団体協議会(四病協)」が発足。 11.30 健康保険法改正成立。老人患者一部負担の見直し(月額上限付き1割負担導入=定額負担との選択制)。 12. 5 森改造内閣発足、厚相に公明党の坂口力が就任。
2001年 平成13年	1.30 医療とIT革命に関する講演会。 2. 1 リスクマネジメントに関する研修会。 3.23 グローバルスタンダードに関する研修会。 3.24 医療情報に関する講演会。 3.30 第四次医療法改正に関する研修会。 4.17 「日本の医療の行方」に関する研修会。 5.11 新入職員研修会。 7.13 「看護必要度」に関する研修会。 8. 2 「がん診療」に関する研修会。 9.16 第11回大阪病院学会「21世紀の病院像」。 9.27 「判例から見た医療事故」に関する研修会。 10.31 「自由診療・ガン保険」に関する研修会。 11.15 「我が国の医療保険制度」に関する研修会。 11.23 大阪城ホールで「医療制度改革に反対する大阪府民1万人集会」が開催され、病院協会も参加。 12.8、9 大病協看護専門学校未入学者研修講座。 12.18 「看護」に関する講演会。	1. 6 中央省庁再編、1府12省庁スタート。厚生労働省発足。 1. 6 省庁再編に伴い22審議会を8審議会に統合。社会保障審議会が発足。 3. 5 厚生省の高齢者医療制度等改革推進本部が「医療制度改革の課題と視点」まとめる。 3. 6 宮崎秀樹が参議院議員に繰り上げ当選。 4.26 第1次小泉純一郎内閣発足、厚相は坂口力が継続。聖域なき構造改革が始まる。 6.21 政府の経済財政諮問会議が骨太の方針まとめる。高齢者医療の総額の伸びを抑制する方針示す。 7.30 参議院選挙で日本医師連盟が推薦する武見敬三が当選。 9.25 厚生省が「医療制度改革試案」を公表。健保本人負担を3割への引き上げや高齢者医療制度の対象を70歳から75歳に段階的に引き上げるなどの案を示す。 11.29 政府与党の社会保障改革協議会が「医療制度改革大綱」を公表。
2002年 平成14年	1.31 「九州大学信友浩一教授」による研修会。「医療の質は誰が保証するのか」 2.26 「ホスピス」に関する研修会。 4.3、4 診療報酬改定点数に関する説明会。 5.16 新入職員研修会。 7. 4 「病院経営」に関する研修会。 8. 2 「主傷病と副傷病」に関する研修会。 8.16 「褥瘡対策」に関する研修会。 9. 7 医療安全推進研修会。 10.31 「リハビリテーション」に関する研修会。 11.19~ 第1回看護職員実務者研修を国立循環器病センターで開催。 12. 4 病院におけるリスクマネジメント研修会。 12.15 大病協看護専門学校未入学者研修講座。 12.18 日本の血液事業に関する講演会。	4. 1 診療報酬改定、本体△1.3%、薬価△1.4、計△2.7%。史上初の本体マイナス改定。 4. 1 健康保険法等改正成立。被用者保険本人3割負担、3歳未満2割負担、老人患者1割負担の徹底。外来薬剤一部負担廃止。 9.17 小泉首相が北朝鮮を訪問。 9.30 小泉改造改革発足、厚相は坂口力が継続。 10.15 北朝鮮から拉致被害者5人が帰国。 12.12 政府の総合規制改革会議が第2次答申。医療経営への株式会社への参入と混合診療容認は見送り。 12.17 厚生省の医療制度改革推進本部が「医療保険制度改革試案」を公表。

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
2003年 平成15年	3.31 インフォームド・コンセントと人権問題に関する研修会。 4.24 新入職員研修会。 7.18 リスクマネジメントに関する研修会。 9. 7 第12回大阪病院学会「病院新生」。 10. 1 大阪府立病院の名称が「府立急性期・総合医療センター」に変更。 12. 7 大病協看護専門学校未入学者研修講座。 12.13 医療安全推進研修会。 12.17 「笑いの科学」講演会。 12.18 医療法人制度に関する講演会。	2.26 中医協総会で厚相が特定機能病院の包括制導入を諮問。対象病院は大学病院、国立がんセンターなど82病院と答申。4月実施。 4. 1 健保本人が3割負担に。 4. 3 厚労省が新型肺炎SARSを新感染症に認定。 6. 1 診療報酬改定、再診料・外来診療料の月内通減制を廃止等。 9.22 小泉改造改革発足、厚相は坂口力が継続。 11.19 第2次小泉内閣発足、厚相は坂口力が継続。
2004年 平成16年	1.26 看護必要度に関する研修会。 3.22 診療報酬改定点数説明会。 4. 1 大阪府が所管する保健所・支所が統合され、11保健所に。 5.10 新入職員研修会。 10.16 医療安全推進研修会。 11.10 大阪府病院薬剤師会幹部と大病・私病の合同懇談会。 11.19 病院経営に関する研修会。 11.25 国民医療を守る大阪府民集会。混合診療の解禁を阻止。 12.12 大病協看護専門学校未入学者研修講座。 12.14 「患者中心の開かれた医療を目指して」講演会。	4. 1 日本医師会会長に植松治雄が就任。 4. 1 診療報酬改定、医科±0、薬価△1.0%、計△1.0%。 4.14 中医協をめぐる歯科の贈収贈事件が発覚。 9.27 小泉改造内閣発足、厚相は尾辻秀久が就任。 9.28 中医協「贈収贈事件に係る中間報告」公表し、「贈収贈事件で政策決定がゆがめられることはなかった」と。 12.27 尾辻厚相と村上誠一郎特命担当大臣が「中医協の在り方の見直しに係る基本的合意」を結ぶ。 10.23 新潟県中越地震が発生。
2005年 平成17年	1.22 医療安全推進指導者講習会。 2. 1 堺市と美原町が合併。 2.28 「病院会計準則」に関する研修会。 3. 7 個人情報保護法に関する研修会。 4.26 新入職員研修会。 6. 6 医療の情報化に関する研修会。 7.14 改正育児・介護休業法・次世代法説明会。 8.24 医療制度改革に関する研修会。 10. 2 第13回大阪病院学会「国民に理解され支持される病院」。 11.24 患者負担増を阻止する大阪府民集会。 12. 2 診療報酬改定と病院経営に関する研修会。 12.16 大阪府におけるエイズ医療の現状と課題に関する講演会。	3.25~9.25 愛・地球博(愛知万博)。 4. 1 個人情報保護法が全面施行。 4.26 日本病院団体協議会が発足。 7. 7 内閣府が初の株式会社医療参入特区「かながわバイオ医療産業特区」の認定を発表。 8. 8 郵政民営化関連法案が参議院で否決。小泉首相が衆議院を解散。 8.15 終戦60周年。 9.21 第3次小泉内閣発足、厚相は尾辻秀久が継続。 10.19 厚労省が「医療制度改革試案」を公表。 10.31 小泉改造内閣発足、厚相は川崎二郎が就任。 11. マンションやホテルの耐震強度偽装事件が発覚。
2006年 平成18年	1.14 医療安全推進指導者講習会。 2. 9 大阪府病院協会創立50周年・大阪府私立病院協会創立30周年合同記念式典・祝賀会(リーガロイヤルホテル)。大阪府病院協会が知事表彰を受賞。 3.27 診療報酬改正点数に関する説明会。 4. 1 看護専門学校に2年課程通信制を開設。 4.27 新入職員研修会。 12.19 看護の専門性とチーム医療に関する講演会。 12.26 院内感染防止対策講習会。	4. 1 日本医師会会長に唐澤祥人が就任。 4. 1 診療報酬改定、本体△1.36%、薬価△1.8%、計△3.16%。史上最大のマイナス改定。中医協に病院代表2名が参加。病診の初診料の統一、7対1入院基本料の導入など。 6.14 健康保険法等改正成立。患者負担の見直し(就学前児2割負担、70~74歳2割負担、現役並み所得の老人3割負担など)。 9.26 安倍晋三内閣発足、厚相は柳澤伯夫が就任。

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
2007年 平成19年	1.24 「このままでは壊されてしまう日本の医療」大阪府民集会。安心して受診できる皆保険制度を守る。 1.27 医療安全推進指導者講習会。 4. 1 大阪府が「医療安全相談センター」を設置。 4.18 新入職員研修会。 7.27 病院における医療廃棄物の適正処理説明会。 11.11 第14回大阪病院学会「大阪の医療の継続と質の向上を目指して」。 12.25 病院における危機管理に関する講演会。	2.16 公的年金保険料納付記録に約5,000万件の該当者不明が判明。 3. 7 中医協新体制。支払側7名、診療側7名、公益6名に。 7.16 新潟県中越沖地震。 7.29 参議院選挙。日本医師連盟推薦の武見敬三が落選。国民新党の自見庄三郎が当選。 8.27 安部改造内閣発足、厚相は舩添要一が就任。 9.26 福田康夫内閣発足、厚相は舩添要一が継続。 10. 1 郵政民営化がスタート。
2008年 平成20年	1.19 医療安全推進指導者講習会。 3.27 診療報酬改正点数説明会。 4.17 新入職員研修会。 5.16 病院協会などが加盟する大阪府地域医療推進協議会が橋下大阪府知事に対して「財政改革プログラム試案に対する要望書」を手交。福祉医療助成事業に1割負担を導入し、所得制限を強化することは到底容認できないと反対の考えを示す。 7.26 医療崩壊を阻止する大阪府民集会。①社会保障費の年2,200億円削減を撤廃、②国民の生命と健康を守るための医療費財源の確保、③国民皆保険制度の堅持—を求める決議を採択。 7.28 公明党との政策懇談会。 9. 2 舩添厚生労働大臣と語る会。「日本の医療を崩壊させないために」をテーマにパネルディスカッションが行われ、病院の立場から大道大先生が意見を述べた。 9.25 近畿病院団体連合会が「社会保険診療報酬にかかる消費税非課税制度の廃止を求める要望書」を、厚生労働大臣や国会議員などに提出。 12.15 病院経営に関する講演会。	1.27 大阪府知事に橋下徹当選。 1.29 社会保障国民会議の第1回会合（座長：吉川洋）。 4. 1 後期高齢者医療制度がスタート。 4. 1 診療報酬改定。本体0.83%、薬価△1.2%、計△0.37%。勤務医の負担軽減策として医師事務作業補助体制加算が新設。7対1入院基本料に看護必要度と医師配置基準を導入、満たさないときは10対1入院基本料を算定。 8. 2 福田改造内閣発足、厚相は舩添要一が継続。 9.15 リーマン・ブラザーズが経営破綻。 9.24 麻生太郎内閣発足、厚相は舩添要一が継続。 10. 1 全国健康保険協会（協会けんぽ）が発足。 11. 4 社会保障国民会議が最終報告を公表。 12.24 持続可能な社会保障構築とその安定財源の確保に向けた中期プログラムを閣議決定。
2009年 平成21年	1.17 医療安全推進指導者講習会。 2. 2 救急医療現場で起こる迷惑行為を考える講演会（第1回）。 3.19 近畿病院団体連合会が「臨床研修制度見直しについての要望書」を、厚生労働大臣・文部科学大臣などに提出。 3.30 大病・私病が橋下大阪府知事に対して「救急勤務医手当導入促進事業」における大阪府補助についての要望書を提出。 4.24 新入職員研修会。 7. 6 救急医療現場で起こる迷惑行為を考える講演会（第2回）。 9. 5 医療安全推進指導者講習会。 10. 4 第15回大阪病院学会「甦れ日本の医療～大阪からの発信～」。 12.21 文化講演会「長寿は得たけれど」。	4.19 大阪維新の会が発足。代表は橋下徹。 5.21 裁判員制度がスタート。 6.11 WHOが新型インフルエンザの警戒レベルを最高のフェーズ6に引き上げ。 8.30 衆議院選挙。民主党が圧勝、政権が交代。 9. 1 消費者庁が発足。 9.16 鳩山由紀夫内閣発足、厚相は長妻昭が就任。 10.26 中央社会保険医療協議会の人事で、日本医師会の委員全員が外される。
2010年 平成22年	2. 2 改正育児・介護休業法及び改正次世代育成支援対策推進法についての説明会。 2.23 教育担当者向け「若手職員の定着化を図る現場指導力向上」研修。	1.19 日本航空が会社更生法の適用を申請。 4. 1 日本医師会会長に原中勝征が就任。

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
2010年 平成22年	3.19 診療報酬改正点数説明会。 4.16 新入職員研修会。 6. 9 第1回新公益法人制度検討委員会。 8. 3 大病・私病の合同医療制度特別検討委員会救急検討分科会及び保険医療協議会合同委員会。 10.31 学習講演会と難病医療相談会。 11.30~12.2 医師事務作業補助者研修。 12.21 文化講演会「笑って元気に100まで生きよう」。	4. 1 診療報酬改定。本体1.54%、薬価△1.36%、計0.18%。民主党政権による政治主導の改定。 5.28 鳩山内閣が普天間飛行場の辺野古移設を閣議決定。 6. 8 菅直人内閣発足、厚相は長妻昭が継続。 7.11 参議院選挙。日本医師連盟が推薦・支援した西島英利、安藤孝夫、清水鴻一郎が落選。 9.17 菅改造内閣発足、厚相に細川律夫が就任。
2011年 平成23年	1.29 医療安全推進指導者講習会。 2.10 教育担当者向け「若手職員の定着を図る現場指導力向上」研修。 3.11 「病院内における迷惑行為と法～判例を踏まえた対応方法～」講演会。 4.28 新入職員研修会。 7.13 臨時代議員会。一般社団法人への移行を承認。 10.16 第16回大阪病院学会「医療・介護のあるべき姿を求めて～大阪からの発信～」。 10.22 医療安全推進指導者講習会。 12.22 文化講演会「生きている」を見つめる医療。 10.29 日本の医療を守るための総決起大会。	1.14 菅改造内閣発足、厚相は細川律夫が継続。 3.11 東日本大震災。 4. 5 自民党が民主党との大連立を拒否。 4.22 福島第一原発20km圏内を立入禁止区域に。 9. 2 野田佳彦内閣発足、厚相は小宮山洋子が就任。 10. 7 厚労省が社会保障改革推進本部を設置。 11.27 大阪のダブル選挙で、大阪市長に橋下徹、大阪府知事に松井一郎が当選。
2012年 平成24年	2.23 教育担当者向け「若手職員の定着化を図る現場指導力向上」研修。 3.26 診療報酬・介護報酬改正点数説明会。 4.19 新入職員研修会。 5.10 近畿病院団体連合会が、消費税の引き上げ方針が決定されたことを受け、「消費税負担を診療報酬で手当することに断固反対する」との声明文を発表。 8.29 大病・私病合同研修会。 12. 8 医療安全推進指導者講習会。 12.19 文化講演会「超高齢化社会における医療」。	1.13 野田改造内閣発足、厚相は小宮山洋子が継続。 4. 1 日本医師会会長に横倉義武が就任。 4. 1 診療報酬改定。 6. 4 野田改造内閣発足、厚相は小宮山洋子が継続。 10. 1 野田改造内閣発足、厚相は三井辨雄が就任。 12.26 第2次安倍晋三内閣発足、厚相は田村憲久が就任。
2013年 平成25年	2.26 教育担当者向け「若手職員の定着化を図る現場指導力向上」研修。 4. 1 一般社団法人大阪府病院協会が発足。 4.18 新入職員研修会。 10.20 第17回大阪病院学会「大阪の医療・介護の進化」。 11.30 医療安全推進指導者講習会。 12. 9 国民医療を守るための集会。 12.19 文化講演会「MAIDO!! 大阪の看護力」。	3.31 国の借金が1,000兆円の大台を突破。 4.24 うめきたの「グランフロント大阪」が開業。 5. 4 こどもの日に合わせて、15歳以下の人口が32年連続で減少していることを発表。 9. 7 2020年オリンピックの東京開催が決定。
2014年 平成26年	3.11 東日本大震災の被災者への支援活動の功績が認められ、大阪府病院協会が厚生労働大臣から感謝状が授与された。 3.25 教育担当者向け「若手職員の定着化を図る現場指導力向上」研修。	4. 1 消費税が5%から8%に引き上げ。 4. 1 診療報酬改定。本体+0.73%、薬価△0.63%、計0.10%。入院基本料7対1の実効性ある削減、地域包括ケア病棟など。

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
2014年 平成26年	3.26 診療報酬改定点数説明会。 4.18 新入職員研修会。 10. 病床機能報告制度が導入されることになったことに伴い、アンケート調査を実施、148病院から回答を得た。今回の診療報酬改定で新設された地域包括ケア病棟の届出は少数であることが判明。 12. 8 国民医療を守るための集会。 12.22 文化講演会「患者と医療者が協働する医療を目指して」	7. 1 集団的自衛権の行使を条件付きで容認する政府見解を閣議決定。 9. 3 安倍改造内閣発足、厚相は塩崎恭久が就任。 11.18 安倍首相が2015年10月の消費税10%への引き上げを2017年4月に延期すると表明。 12.14 衆議院選挙。 12.24 第3次安倍内閣発足、厚相は塩崎恭久が継続。
2015年 平成27年	2.25 教育担当者向け「若手職員の定着化を図る現場指導力向上」研修。 4.17 新入職員研修会。 6.10 メディカル・スタッフの専門資格取得及び待遇に関するアンケート調査の結果まとまる。認定看護師が「いる」病院は58.0%であった。 8. 8 医療事故調査制度に関するセミナー。 8.27 医事課実務研修会「医療分野におけるマイナンバー制度実務対応」。 11.15 第18回大阪病院学会「2025年大阪の医療提供体制への提言」。 12.16 文化講演会「みんなで紡ぐ地域包括ケア」。	3.13 トワイライトエクスプレスが1989年7月以来の運航を終了。 5.17 大阪都構想の是非を問う大阪市の住民投票、僅差で否決される。橋下市長が政治家引退を表明。 9.19 安全保障関連法成立、集団的自衛権の行使を容認。 10. 5 マイナンバー法施行。マイナンバー通知カードを配付。 10. 7 安倍改造内閣発足、厚相は塩崎恭久が継続。 11.22 大阪府知事と大阪市長のダブル選挙。知事に松井一郎、市長に吉村洋文が当選。
2016年 平成28年	2.24 職員育成に必要な指導力向上研修。 3.30 診療報酬改定点数に関する説明会。 4.22 新入職員研修会。 10.24 大阪府医療勤務環境改善支援センター第1回運営協議会。 12.21 文化講演会「2025年に向けた看護の将来ビジョン」。	4. 1 診療報酬改定。本体+0.49%、薬価△1.33%、計△0.84%。入院基本料7対1の重症度、医療・看護必要度の見直しなど。 4.14 熊本地震。 8. 3 安倍改造内閣発足、厚相は塩崎恭久が継続。 8. 8 天皇陛下がビデオメッセージで生前退位の意向を表明。
2017年 平成29年	1.31 「スポーツと心身の健康」講演会。 3. 1 職員育成に必要な指導力向上研修。 3. 9 ORIONの意義と運用状況についての説明会及び意見交換会。 5.12 新入職員研修会。 8. 2 病院職員実務者研修「正念場を迎えた病院経営」。 9.21 講演会「インフォームド・コンセントについて考える」。 11.12 第19回大阪病院学会「夢のある高齢社会を目指して」。 12.20 文化講演会「医師会が進める地域包括ケアシステム」。	2. 9 森友学園へ国有地を格安で売却したことが判明。 4. 2 地域医療連携推進法人創設。 2.17 安倍首相が森友問題について、私や妻が関係していたならば、首相も国会議員も辞めると発言。 7. 2 東京都知事選挙。知事に都民ファーストを率いる小池百合子が当選、自民党惨敗。 8. 3 安倍改造内閣発足、厚相は加藤勝信が就任。 10.22 衆議院選挙。 11. 1 第4次安倍内閣発足、厚相は加藤勝信が継続。
2018年 平成30年	2.16 職員育成に必要な指導力向上研修。 3.20 近畿病院団体連合会が、「医師の働き方改革に係る要望書」を厚生労働大臣に提出。時間外労働規制について、人々の命と健康を守るという医業の特殊性に配慮するよう求める。 3.29 診療報酬・介護報酬改定点数に関する説明会。	4. 1 診療報酬改定。本体+0.55%、薬価△1.74%、計△1.19%。医療と介護の同時改定。介護報酬では介護医療院を創設。 4. 1 大阪市交通局が民営化。 9. 4 台風21号が上陸。関空連絡橋にタンカーが衝突。

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
2018年 平成30年	4.19 新入職員研修会。 8. 6 病院職員実務者研修会「地域包括ケアシステムに対応するための看護師の役割」。 10. 5 講演会「診療報酬改定から見る医療制度改革の方向性」。 12.20 記念講演会「笑いと医療」。	10. 2 安倍改造内閣発足、厚相は根本匠が就任。 11.24 2025年の万博を大阪で開催することを決定。1970年以来、55年ぶり。 12.23 平成最後の天皇誕生日。以後は祝日が削除され平日になる。
2019年 平成31年 令和元年	2.15 職員育成に必要な指導力向上研修。 3.13 臨時総会特別講演会「これからの医師の働き方～新しいパラダイム」。 4.12 新入職員研修会。 9.17 講演会「診療報酬改定2018の病院経営への影響と消費増税・診療報酬改定2020への対応」。 10.27 第20回大阪病院学会「大転換期の日本と医療」。 12.18 記念講演会「人口減少時代に向けた急性期医療における栄養療法の意義」。	4. 7 大阪府知事選挙、吉村洋文が当選。大阪市長選挙、松井一郎が当選。 4.30 平成天皇が生前退位。 5. 1 皇太子殿下が即位。令和と改元。 9.11 安倍改造内閣発足、厚相は加藤勝信が就任。 10. 1 消費税を8%から10%に引き上げ。消費税の引き上げに伴う診療報酬改定。本体+0.41%。
2020年 令和2年	2.13 職員育成に必要な指導力向上研修。 9. 9 大病・私病合同実施の「COVID-19病院経営影響度調査」を公表。52病院から回答があり、対前年同月比で医業収入は4月△11.12%、5月△19.17%、医業利益は、4月△11.14%、5月△16.10%であった。 9.17 新型コロナウイルス感染症が病院経営に極めて厳しい状況をもたらしているとして、大阪府病院協会・大阪府私立病院協会・大阪府医療法人協会の3会長の連名で、大阪府知事に対して、病院経営の支援策を講じるよう要望書を提出。 9.25 病院経営影響度調査の結果がMEDIFAXに掲載され、「コロナの病院経営の影響 大阪でも深刻」と報道される。 11.11 役員研修会「新型コロナウイルス感染症患者の治療の現状について」。	1. 6 中国の武漢で原因不明の肺炎。厚労省が注意を喚起。 1.14 WHOが新型コロナウイルスを確認。 1.15 日本国内で初めて新型コロナウイルス感染を確認。 1.30 WHOが緊急事態を宣言。 2. 3 新型コロナウイルスに感染した乗客が乗ったダイヤモンド・プリンセス号が横浜港に入港。 4. 1 診療報酬改定。本体+0.55%、薬価△1.01%、計△0.46%。新型コロナウイルス対応の診療報酬。 4. 7 7都府県に緊急事態宣言。 6.27 日本医師会会長に中川俊男が就任。 9.16 菅義偉内閣発足、厚相は田村憲久が就任。
2021年 令和3年	3. 大病と私病が、「COVID-19病院経営影響度調査」を実施。令和2年3月～12月の状況を対前年度と比較した調査結果を公表。外来患者数は、すべての月でマイナスとなっており、特に5月が△28.7%、4月が△21.5%であった。入院患者数も、すべての月でマイナスになっており、5月が△20.7%、6月が△15.0%であった。医業収入は、5月が△10.17%と最も大きな影響を受けていた。 4.～ 新型コロナウイルス感染症に係る宿泊療養施設への医師派遣を開始。大阪府私立病院協会及び大阪府医師会と協力して24時間体制での医師派遣に協力。令和3年3月31日で終了したが、この間、実施したオンライン診療は12,447件にのぼった。 6. 9 定時総会特別講演会「日常診療における説明責任～トラブルにならないための説明と同意」。 11. 7 第21回大阪病院学会「コロナを越えて羽ばたこう!大阪の医療」。コロナのためWEB開催に変更。 12. 8 大病・私病共催の特別講演会「国際マシギャザリングイベントに向けた感染症対策」「COVID-19に学ぶ～国際イベント開催における注意点を含めて」。	2.17 新型コロナワクチンの国内接種始まる。医療従事者。4万人に先行接種。 7.23 東京五輪が開幕。新型コロナの影響で史上初の1年間延期で開催され、日本は金メダル27個で、歴代最多となる。 8. 6 国内の新型コロナの感染者数が累計100万人を突破。夏以降は感染力が強い変異ウイルス「デルタ株」が流行し、医療提供体制が逼迫した。 9. 1 DX推進のためデジタル庁を設置。 9.30 19都道府県に発令していた新型コロナの緊急事態宣言と8県に対する蔓延防止等重点措置が解除。 10. 4 新首相に岸田文雄が就任。厚相に後藤茂之が就任。 11.30 新型コロナの新たな変異株「オミクロン株」の感染拡大を受け、政府は外国人の新規入国を原則停止。

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
2022年 令和4年	3.24 診療報酬改定に関する説明会。 5.13 大病・私病共催の特別講演会「トラブルを防ぐカルテの書き方」。 7. 4 全日病大阪府支部と共催の講演会「医療現場におけるサイバーリスクと今後のセキュリティ対策」。 9. 6 全日病大阪府支部と共催の講演会「働き方改革のために病院としてやるべきこと」。 10. 5 光熱費などの物価高騰に対して医療機関を支援するよう求める要望書を大阪府知事に提出。 10.14 光熱費などの物価高騰に対して医療機関を支援するよう求める要望書を大阪市長に提出。 11.27~ 大阪市から大病・私病に対して「日曜・祝日・年末年始」の発熱外来の整備を要請され、17病院が協力。 2月末日 開設日数は延べ214日、受診者数は3,783人、うち新型コロナが1,035人、インフルエンザが928人、両方が7人であった。	2. 5 新型コロナウイルスのオミクロン株が流行し、1日の新規患者数が初めて10万人を超える。 2.12 将棋の藤井聡太が19歳6か月で5冠を達成。 2.24 ロシアがウクライナに侵攻。 4. 1 診療報酬改定。本体+0.43%、薬価△1.37%、計△0.94%。看護の処遇改善、リフィル処方箋導入、不妊治療の保険適用など。 4. 1 改正民法が施行され、20歳の成人年齢が18歳に引き下げ。 6.25 日本医師会会長に松本吉郎が就任。大阪の茂松茂人が副会長に就任。 7. 8 奈良市で参議院選挙の応援演説中であった安倍晋三元首相が銃撃され死亡。 8.10 岸田改造内閣発足、厚相は加藤勝信が就任。 10.20 32年ぶりの円安、1ドル150円を突破。
2023年 令和5年	4. 4 大阪府医師会と病院団体が物価高騰・食材料費への支援の要望書を大阪府知事と大阪市長に提出。 6. 7 大阪府医療法人協会と共催の講演会「医療提供体制改革としての医療法人改革を見極める～医療法人経営情報開示制度創設の狙いを考える」。 10. 8 第22回大阪病院学会「あるべき日本の医療 示そう大阪の病院から」。 11.20 全日病大阪府支部と共催の講演会「発展を続けるAI—その可能性とリスク」。 11.22 大阪府地域医療推進協議会主催による「国民医療を守るための集会」。物価高騰や賃上げ、技術革新への対応には十分な原資が必要であると。 11.27 記念講演会「新型コロナと対峙して 今、伝えたいこと」。 12. 1 大阪府知事と大阪市長に対して「重点支援地方交付金」の活用について、要望書を提出。大阪府三師会や病院協会など7団体連名。光熱費等の支援と食材料費への支援を求める。 12.18 全日病大阪府支部と共催の講演会「診療報酬・介護報酬の改定(特に栄養ケアについて)」。	1. 4 岸田首相が異次元の少子化対策に取り組む考えを表明。 2.21 岸田首相がウクライナのキーウを電撃訪問。 4. 1 こども家庭庁が発足。 4. 9 大阪府知事に吉村洋文が再選。大阪市長に横山英幸が当選。 5. 8 新型コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げ。 5.19 7か国首脳会議が広島市で開催。 8.24 東京電力第一原子力発電所の処理水の海洋放出を開始。 9.13 岸田改造内閣が発足、厚相に武見敬三が就任。自見花子も地方創生・沖縄北方・万博担当大臣に就任。 10. 1 消費税のインボイス制度開始。 10. 1 米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手が44本塁打で日本人初の本塁打王に輝く。 10.11 将棋の藤井聡太が史上初の八冠。 11. 5 阪神タイガースが38年ぶりの日本一。
2024年 令和6年	1. 9 病院関係五団体新年互礼会、4年ぶりに開催。284名が参加。 1. 9 大阪府が「物価高騰一時支援金」(令和5年度2回目実施分)の支給申請始める。病院及び2床以上の有床診療所は、15,000円×許可病床数。診療所等は定額30,000円。 1. 9 大阪府が「食材料費高騰対策一時支援金」を支給。診療報酬改定までのつなぎ支援。すべての病院と有床診療所に、6,400円×許可病床数。 1.17 木野昌也会長が「メディカルジャパン2024大阪」で「深化する関西圏の医療～2040年への課題と解決」と題して講演。 2.22 職員育成に必要な指導力向上研修。4ぶりに開催。	1. 1 能登半島地震(震度7)、津波被害甚大。 1. 2 羽田沖で日航機と海保機が衝突炎上。 1.13 台湾総統選で頼清徳が新総統に選出。 2.16 政府が令和5年の国内総生産(GDP)を公表。ドル換算した日本の名目GDPがドイツに抜かれて世界第4位に後退。 2.29 大リーグ・ドジャースの大谷翔平選手が結婚を発表。 3.16 北陸新幹線、金沢～敦賀間が開業。 3.19 厚生労働省が2022年12月末日現在の医師数を公表。女性医師の割合が23.6%に増加。

年次	大阪府病院協会の歩み	国内医事など
2024年 令和6年	3.29 大阪府知事から大阪府病院協会を含む医療関係団体に新型コロナ対応で「感謝状」が贈呈される。	4. 1 診療報酬改定。本体+0.88%、薬価△1.00%、計△0.12%。ベースアップ評価料、地域包括医療病棟の新設など。介護報酬・障害福祉報酬とのトリプル改定。
	4.22 診療報酬改定に関する説明会。	4. 3 台湾の東部沖でマグニチュード7.4の地震が発生。
	4.23 新入職員研修会。	6. 5 厚生労働省が令和5年の人口動態統計(概数)を発表。合計特殊出生率が過去最低の1.20に下落。
	5.13 大阪府が「食材料費高騰対策一時支援金」を支給。診療報酬改定までの措置。すべての病院と有床診療所に、3,200円×許可病床数。	6.21 政府は「骨太の方針2024」を閣議決定。社会保障費は、経済物価動向に配慮し、各年度の予算編成過程で検討する方針示す。
	5.15 大阪府病院協会創立70周年、大阪府私立病院協会創立50周年の合同式典、記念講演、祝賀会を開催(リーガロイヤルホテル)。270名が参加。	7. 3 日本銀行は20年ぶりとなる新紙幣1万円、5千円、千円の発行を始める。
	6.12 令和6年度定時総会。木野昌也会長が再任(2期目)される。	7. 7 東京都知事選。現職の小池百合子が3期目の当選を果たす。
	6.12 理事会。看護専門学校2年課程通信制の定員を令和7年度から250名から150名に変更することを決定した。	7.26 厚生労働省が昨年の日本人の平均寿命は、女性が87.14歳、男性が81.09歳と発表。女性は39年連続で世界第一位。
	9.11 日本国際博覧会協会から「大阪・関西万博」医療救護診療所への医師の出務について協力要請があった。病院協会として、2か所の診療所の出務について協力することを決めた。	7.26 パリ五輪開幕。
	11.12 人件費増と物価高騰支援、病院薬剤師確保について大阪府知事に要望書。	9.19 大谷翔平、米大リーグ初の「50-50」。
	11.25 臨時総会を開催し、看護専門学校の閉校を承認。2年課程通信制:令和7年度の入学生で閉科、3年課程:令和8年度の入学生で閉科する方針。	10. 1 石破内閣が発足、厚相に福岡資麿が就任。
	11.26 永年勤続記念講演会。博覧会協会の堺井啓公・担当局長が「大阪・関西万博について」講演し、多数の来場を呼びかけた。	10.15 闇バイト強盗相次ぐ。
	12.13・16 大阪府知事と大阪市長に、国の「重点支援地方交付金」を活用した病院への支援を要望。	10.27 衆院選、与党過半数割れ。
		11. 5 アメリカ大統領選挙、トランプ氏が返り咲き。1月20日就任。

■ 勲章及び褒章受章者一覧

氏名	勲 章		受章時の 役職	褒 章		受章時の 役職
	時期	種別		時期	種別	
澤 潤一	昭和62年春	勲三等瑞宝章	常任理事	昭和51年秋	藍綬褒章	常任理事
河崎 茂	平成2年春	勲三等旭日中綬章	名誉会長	昭和54年秋	藍綬褒章	副会長
有澤 源蔵	昭和62年春	勲四等旭日小綬章	副会長			
内藤 景岳	昭和59年秋	勲三等旭日中綬章	名誉会長	昭和54年秋	藍綬褒章	会 長
田中 治	平成5年春	勲四等瑞宝章	常任理事	昭和62年秋	藍綬褒章	常任理事
福田 耕作				平成元年秋	藍綬褒章	会 長
加納 繁美				平成元年秋	藍綬褒章	常任理事
大道 學	平成10年春	勲四等旭日小綬章	会 長	平成4年春	藍綬褒章	会 長
岸口 繁	平成10年春	勲四等瑞宝章	名誉会長	平成5年春	藍綬褒章	理 事
中後 勝				平成9年春	藍綬褒章	副会長
大北 昭	平成20年秋	瑞宝旭日双光章	元常任理事			
三上 裕司				平成23年秋	藍綬褒章	元理事
行岡 正雄				平成25年春	藍綬褒章	常任理事
日野 頌三	平成29年春	瑞宝旭日中綬章	元常任理事			
今岡 真義	平成30年春	瑞宝小受章	名誉会長			
小川 嘉誉	平成30年秋	瑞宝小受章	名誉会長			
生野 弘道	令和元年秋	瑞宝双光章	常任理事			
佐藤 眞杉	令和2年秋	瑞宝双光章	元常任理事			
河崎 建人	令和4年春	瑞宝中綬章	理 事			



大阪府病院協会の歴史



昭和30（1955）年12月6日	大阪病院協会設立。事務所は、大阪市東区法円坂の国立大阪病院内に置く。 会員数229、組織率78.7%。
昭和36（1961）年4月1日	大阪府病院協会と改称。事務所を大阪府医師会館内に変更。
昭和44（1969）年8月20日	大阪府医師会役員との懇談会。（第1回）
昭和45（1970）年11月1日	社団法人大阪府病院協会認可。
昭和46（1971）年9月23日	大阪府私立病院協会の設立を了承。
昭和46（1971）年10月	事務所を大阪府医師会館別館に移転。
昭和49（1974）年8月7日	大阪府私立病院協会設立。大阪府私立病院協同組合設立。
昭和52（1977）年1月26日	第1回病院職員永年勤続者表彰式を開催。
昭和55（1980）年8月20日	本会の英文名（OSAKA HOSPITAL ASSOCIATION）を決定。
昭和56（1981）年9月27日	第1回大阪病院学会を開催。
昭和63（1988）年11月18日	事務所を日本自転車貿易センターの4階に移転。
平成8（1996）年2月	創立40年史を発刊。
平成9（1997）年4月1日	事務所を大阪府病院年金会館の3階に移転。
平成11（1999）年5月	「HOS・MAP99」を発刊。
平成18（2006）年2月9日	大阪府病院協会創立50周年・大阪府私立病院協会創立30周年 合同記念式典と祝賀会を開催。大阪府病院協会が知事表彰を受賞。
平成25（2013）年4月1日	一般社団法人大阪府病院協会が発足。
令和6（2024）年3月29日	大阪府知事から新型コロナ対応に貢献したとして大阪府病院協会などに感謝状が贈呈される。
令和6（2024）5月15日	大阪府病院協会創立70周年・大阪府私立病院協会創立50周年 合同記念式典と祝賀会を開催。

大阪府病院協会看護専門学校

大阪府病院協会看護専門学校は、昭和46年に東大阪市に設立されて以来、50年余りにわたり、地域医療に貢献する看護師の養成に努めてきました。

これまで、教育の質を高めることを第一に考え、「大阪府病院協会」が求める能力を持つ看護師の育成を目指し、本協会のネットワークを生かし、現場の声を反映した教育を実施してまいりました。

本校の教育理念は、「生命の尊厳・人間理解・倫理観を気づきの基盤とし、臨床判断力、看護実践力、チーム協働力、看護の探求力を獲得し、気づき、感じて、考え、行動すること」であり、多くの卒業生が、看護師として、患者さんの健康と幸福を支えてきたことは、私たちの誇りです。

医療の進歩により看護師の役割は多様化し、その内容も年々高度化しています。

これからも、病院協会が設立した看護専門学校として、技術や知識の習得はもちろんのこと、患者の痛みや悩みにも寄り添える、全人的な看護のできる看護師の養成に力を注ぎ、社会のニーズに応える人材を育成してまいります。

学校長 佐々木 洋

1 設置主体	一般社団法人大阪府病院協会
2 所在地	大阪市浪速区浪速西2丁目13-9
3 土地	本館土地：大阪市より無償賃借 835.05㎡ 新館土地：大阪府病院協会所有 278.0 ㎡
4 建物	本館 昭和62年建築 鉄骨6階建て 2500.57㎡ 新館 平成30年建築 鉄骨4階建て 497.41㎡
5 設置学課	看護学科3年課程（1学年定員80名） 2年課程通信制（1学年定員250名 R7から150名）
6 沿革	昭和46年4月 東大阪市永和2丁目7番28号に「大阪府病院協会附属 准看護学院」を設立 昭和62年4月 大阪市浪速区浪速西2丁目13番9号に移転 大病協看護専門学校と改称 看護科（2年課程昼間定時制）を開設 平成14年4月 本館全面改装 平成15年3月 准看護科閉科 平成15年4月 3年課程開設（看護第1学科） 2年課程昼間定時制併設（看護第2学科） 平成18年4月 3年課程増員（看護第1学科） 2年課程通信制開設 平成20年3月 2年課程昼間定時制（看護第2学科）閉科 平成20年4月 大阪府病院協会看護専門学校3年課程全日制と学校名・ 学科名を変更 平成21年4月 大阪府病院協会看護専門学校 看護学科3年課程（全日制） と学科名を変更 平成28年 大阪市から新館土地を購入 平成30年4月 新館建設

歴代の学院長・学校長

昭和46（1971）年 6 月	大阪府病院協会附属准看護学院開校 初代学院長：王子 喜一
昭和47（1972）年 5 月	第2代学院長：野木 一雄
昭和50（1975）年 4 月	第3代学院長：澤 潤一
昭和58（1983）年 9 月	第4代学院長：野木 一雄
昭和61（1986）年10月	第5代学院長：澤 潤一
昭和62（1987）年 4 月	大病協看護専門学校と改称 初代学校長：澤 潤一
平成 5（1993）年 7 月	第2代学校長：岸口 繁
平成 6（1994）年 4 月	第3代学校長：武田 惇
平成 8（1996）年 4 月	第4代学校長：大道 學
平成10（1998）年 4 月	第5代学校長：滝 一郎
平成20（2008）年 4 月	大阪府病院協会看護専門学校と改称
平成21（2009）年 4 月	第6代学校長：小川 嘉誉
平成30（2018）年 6 月	第7代学校長：福原 毅
令和 6（2022）年 6 月	第8代学校長：佐々木 洋



大阪府病院協会 創立70周年
大阪府私立病院協会 創立50周年
合同記念式典・記念講演・祝賀会

日 時 令和6年5月15日(水)

記念式典 午後4時より

記念講演会 午後5時より

祝賀会 午後6時より

会 場 リーガロイヤルホテル

創立記念式典を合同で開催し 更なる発展と連携を期する

大阪府病院協会と大阪府私立病院協会

大阪府病院協会の創立70周年、大阪府私立病院協会の創立50周年を合同で祝う記念式典、記念講演会、祝賀会が5月15日夕刻、大阪市北区中之島のリーガロイヤルホテルで開催され、270名が出席した。

創立記念式典では、主催者を代表して両会の会長・副会長・名誉会長が登壇した。また、ご来賓として、近畿厚生局長の得津 馨様、大阪府知事代理の副知事の渡邊繁樹様、大阪市長代理の副市長の山本剛史様、日本医師会会長の松本吉郎様、大阪府医師会会長の高井康之様、日本病院会会長の相澤孝夫様、そして出席された近畿病院団体連合会の会長にご登壇いただいた。

■ 主催者代表あいさつ



大阪府病院協会 木野 昌也 会長

大阪府病院協会は昭和30年、1955年に設立されました。正確に申し上げますと、来年2025年に70周年を迎えることになります。本日ここに大阪府病院協会と大阪府私立病院協会が、合同で創立記念式典を開催させていただきましたのは、新たな時代に向けて、大阪府の医療・健康・福祉の更なる増進を図るためには、大阪府病院協会と大阪府私立病院協会が共に手を携えて、一致協力して様々な課題に取り組んでいく必要があるからです。

我々病院がこれまでに歩んできた道は、決して平坦なものではありませんでした。しかし厳しい経営環境の中にあっても、大阪府下の病院は見事にこれまでの難局を克服し、地域医療の発展に貢献して参りました。両協会の歴代の会長、副会長、役員をはじめ会員病院の皆様の日々のご活躍に敬意を表したいと思います。そして大阪の病院がその責任を立派に果たすことができるよう、様々な面でご支援、ご指導いただきました関係諸団体の皆様には改めて感謝いたします。本当にありがとうございます。これからも引き続き、より一層のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。本日は限られた時間ではありますが、両協会の創立を記念し皆様と共に祝いたいと思います。本日はご参列いただきまして誠にありがとうございます。



大阪府私立病院協会 生野 弘道 会長

当協会は、大阪府病院協会、大阪府医師会から、“我が子”のように育てていただきました。また、大阪や近畿一円の多くの関係諸団体の仲間に入れていただきました。さらに、日本医師会、日本病院会など中央の関係諸団体にも参加できるようになり、多くのことを学びました。

近年、大阪府の暖かいご指導を受け、府民のための医療提供体制の一翼を担わさせていただくようになりました。

特に、新型コロナウイルスとの闘いでは、当協会も力一杯闘いましたが、その努力が認められ、50周年式典に際し、大阪府から感謝状をいただくことになり、大変うれしく思っています。ありがとうございました。

このように、多くの関係団体の皆様や、本日ご列席いただきましたご来賓の方々にご理解とご支援をいただき、当協会は大きく成長することができました。これまでのご支援、心から御礼を申し上げます。

最近、私立病院だけでなく、あらゆる医療機関にも、単なる不況とは異なる、“大きな波”が押し寄せています。その波と闘いながら、私どもも新たな一步を踏み出さねばなりません。この50周年を「第二の創立」と考え、初心に帰って事に当たっていきたいと思います。これから、私立病院協会は、大阪府病院協会と更に連携を深め、大阪府医師会を中心とした“オール大阪”の一員として、大阪府民のため、地域医療活動に全力を注ぎ、さらなる躍進を遂げたいと願っています。

■ ご来賓のご祝辞



近畿厚生局長 得津 馨 氏

大阪府病院協会が設立された昭和30年は、まだ医療保険制度の適用者が総人口の3割であったなど、医療を受ける環境が現在とは違う課題が山積した時代でありました。また、大阪府私立病院協会が設立された昭和49年は、老人医療費の無料化や医療保険の家族給付率が5割から7割に移行するなどが行われた時代で、大きく医療ニーズも増加する時代であったと考えております。

両協会が設立された時代背景は異なりますが、その時々々の医療課題を踏まえつつ、会員病院が一致協力して病院の資質の向上発展を進め、社会の福祉増進を目的としていることは共通であり、長年この目的に則って役割を果たされてきたことは行政の立場としても大変意義深いものと受け止めています。

時代も昭和から平成、そして令和へと進み、その間も医療を取り巻く環境は変化し、また先般の新型コロナウイルス感染症のような健康危機事象など予期せぬこともありました。しかしながら、様々な課題に両協会、そして各病院が一致協力して乗り越えられてきて、今日を迎えられていると考えております。

国内外の社会情勢や経済情勢なども考えますと、医療を取り巻く環境も厳しさを増してくるものと容易に想像できますが、両協会及び会員病院皆様方は幾多の困難をも乗り越えられて来ております。これからも確実に乗り越えていけるものと信じております。そして厳しい環境の中でも協会としての役割を果たされ、ひいては大阪府民の健康の保持増進に、末永く寄与するものと期待しております。



大阪府知事 吉村 洋文 氏 (渡邊繁樹・副知事代読)

大阪府病院協会創立70周年、大阪府私立病院協会創立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。これまでの活動を支えてこられた木野昌也会長、生野弘道会長をはじめ、歴代の会長、役員、会員の皆様の熱意とたゆまぬご努力に深く敬意を表します。

大阪府病院協会は、国公立・公的・民間の病院が一体となり、病院の資質の向上発展及びその使命遂行に関する事業を行い、社会の福祉増進に寄与するなど、医療活動の充実と地域医療の質向上にご尽力されてきました。また、大阪府私立病院協会は、大阪では民間病院が約9割を占める中、各病院の自立した経営支援や医療従事者の勤務環境の改善への取り組み支援による安全で質の高い医療の提供に、ご貢献されてきました。この間の両団体の、大阪府の健康医療・福祉行政の推進への格別のご理解、ご協力に、改めて厚くお礼申し上げます。

近年では、4年以上にわたる新型コロナウイルス感染症への対応において、府民の命を守るため、一丸となって大阪の医療を支えていただきました。大阪府といたしましては、これらの経験を踏まえ、昨年度末に策定した第8次大阪府医療計画、大阪府感染症予防計画に基づき、平時より新興感染症の発生・まん延時や災害時など有事に備えた医療体制の構築を図ることとしております。計画策定にあたり、審議会等においてご意見ご議論をいただき、ありがとうございました。

また、いよいよ、「2025年大阪・関西万博」の開催まで1年を切りました。安心で安全な万博の開催に向けまして、救急医療体制の構築や外国人患者の受入等について、万全を期すべく準備を進めております。

これら取組の推進に向けまして、今後とも大阪府病院協会、大阪府私立病院協会の皆様のより一層のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



大阪市長 横山 英幸 氏 (山本剛史・副市長代読)

大阪府病院協会創立70周年並びに大阪府私立病院協会創立50周年の記念式典が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、木野会長、生野会長をはじめ、両協会の皆様方には、平素から市民の健康をお守りいただくとともに保健衛生行政をはじめ大阪市政の各般にわたり格別のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症対策におきましては、診療から検査、入院患者の受け入れ、インフルエンザとの同時流行に備えた臨時発熱外来の開設など、皆様には多岐にわたり、ひとかたならぬご尽力をいただき、深く敬意を表する次第であります。今日、高齢化がますます加速していく中で、保健・医療の充実と向上に、両協会の果たされる役割は極めて大きなものがあり、引き続き社会福祉の増進にご貢献くださいますよう期待申し上げます。

さて、来年には「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪・関西万博が開幕します。大阪市としましても、地元自治体として大阪が世界に貢献する姿を示し、その強みや魅力等を全世界に発信するため、大阪ヘルスケアパビリオンの出展に向けた準備を進めております。また、万博のインパクトを最大限に活かし、大阪の持続的な成長につながる取組を進めてまいります。暮らしを守る医療・福祉の向上、子育てや教育環境の充実など、市民サービスの拡充を追求し、一人ひとりが多様な幸せを実感でき、誰もが安心していつまでも住み続けたいと思う「にぎやかで活気あふれるまち大阪」の実現をめざしてまいりますので、引き続き皆様方のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



日本医師会会長 松本 吉郎 先生

大阪府病院協会におかれましては、創立70周年、大阪府私立病院協会におかれましては、創立50周年をお迎えになったとのこと、改めてお祝い申し上げます。それぞれの団体が、お互いに協力し合い、また、地元の各医師会とも手を取り合って大阪府の病院医療を先導してくださっていることに改めて御礼申し上げます。

過去を振り返ってみますと、70年前の1955年は、戦後の荒廃から立ち直り、全国の病院数が5,000を上回る状況でございました。大阪府病院協会におかれましては、戦後の大阪府における病院医療の礎を築き、現在の発展した姿にまでご尽力くださったことと存じます。今後も新たな地域医療構想に向けてご指導頂きたく考えております。

また、50年前の1974年はいわゆる第一次オイルショックのまただ中でございました。現在も物価高で苦しんでいますが、それを大きく凌ぐ「狂乱物価」ともいわれるほどの経済状況にあったため、当時の日本医師会長の武見太郎先生が奔走し、診療報酬引き上げとするなどの辣腕を発揮された時代であり、医療界も非常に混沌とした状況に見舞われておりました。そのような中で大阪府私立病院協会が創立され、私立病院ならではの課題について、大阪府内の各種団体と一緒に半世紀の長きにわたり取り組んでくださっていただきました。大阪府では私立病院が大きな役割を果たしていることは、大阪府の様々な先生方から教えていただいております。引き続き、その重要な役割を果たしていただけたらと考えております。

振り返って、2020年からのコロナ禍をはじめとして、医療をめぐる様々な困難がございましたが、それぞれの団体の会員の皆様方がお力を発揮され、乗り越えることができたことに改めての御礼を申し上げます。

しかしながら、コロナ禍をなんとか乗り越えましたが、目の前には医師の働き方改革や地域偏在の課題があり、近年まれに見る物価上昇や人件費上昇の荒波に揉まれております。日本医師会は、大阪府医師会や病院団体のみならず、医療界として一致団結して、この荒波を乗り越えるための取り組みを着実に進めてまいりたいと考えています。皆様におかれましては、引き続き深いご理解と格段のご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。



大阪府医師会会長 高井 康之 先生

大阪府病院協会が70周年、大阪府私立病院協会が50周年をお迎えになり、心よりお喜び申し上げます。

今年は元日から能登半島で大きな地震があり、日本医師会から直ちにJMATの派遣要請がありました。JMATを能登に派遣することについては、間断なく4月末まで派遣できたのは会員のみならず、病院協会の先生方のご協力があったことであると感謝しております。また支援金に関しましても、各種団体、医療機関の皆様から1900万円を超える額が振り込まれ日本医師会にお送りしたところであります。

病院団体と大阪府医師会は、歴史的にも非常に緊密な関係を持っており、関係は極めて良好でございます。年に1回、大阪府病院協会、大阪府私立病院協会の役員の先生方と大阪府医師会役員がテーマを決めて様々な意見交換を行っています。コロナ禍という非常に大変な状況におきましても、病院協会と医師会が協力したことで対応できたと思います。また、大阪府医師会には委員会がございますが、病院協会の先生方に委員会に参画いただき、ご意見を賜っているところでございます。先日今岡先生に委員長をお願いしている病院委員会では、外来医療計画について提言をいただきました。外来受診重点医療機関などについて様々なご意見をいただき、これがうまく機能して診療所のかかりつけ医と高度の医療機能を持つ医療機関が連携して、必要な方に適切な医療が提供されるように、発展していければと思っております。

さて、診療報酬に関しましては、昨年末にプラス0.88%という近年にない診療報酬のアップが、日本医師会の松本会長はじめ、中央の病院団体、医療団体が一致協力した結果でもたらされました。これが医療従事者の給与のアップに繋がれば大変喜ばしいことと思います。しかしながら、診療所にとっては、生活習慣病に関しては非常に厳しい点もありますし、病院に関しても、これからどのような影響が出てくるのか、中医協委員にはもう少し頑張っていたら良かったと思っています。

これからも病院協会と大阪府医師会は、手を携えて協力して大阪府民の健康増進に力を合わせていきたいと思っております。木野会長、生野会長はじめ、両病院団体の先生方との連携を密にするとともに、両会のますますのご発展を祈念して、大阪府医師会としてのお祝いの言葉とさせていただきます。

大阪府知事からの表彰状が大阪府私立病院協会と下記9名の役員に贈られました。

❖ 団体の部

一般社団法人大阪府私立病院協会

❖ 個人の部

大阪府病院協会 名誉会長

八尾市立病院 特命総長

佐々木 洋 先生

大阪府病院協会 副会長

社会医療法人山紀会 山本第三病院 理事長

山本時彦 先生

大阪府病院協会 理事

社会医療法人美杉会 佐藤病院 院長

河合泰博 先生

大阪府病院協会 理事

医療法人りんどう会 向山病院 理事長

多田正知 先生

大阪府病院協会 理事

社会医療法人生長会 理事長

亀山雅男 先生

大阪府私立病院協会 常任理事

社会医療法人寿楽会 大野記念病院 理事長

大野良興 先生

大阪府私立病院協会 常任理事

公益財団法人浅香山病院 理事長

高橋 明 先生

大阪府私立病院協会 常任理事

特定医療法人新仁会 新仁会病院 理事長

鹿島洋一 先生

大阪府私立病院協会 常任理事

社会医療法人ONE FLAG おおさかグローバル整形外科病院 理事長

牧 恭彦 先生



団体の部 大阪府私立病院協会



個人の部 佐々木 洋 先生

第2部 記念講演会

テーマ「古代エジプトの不病、不老、ピラミッド」

講師：名古屋大学国際高等研究機構 高等研究院
准教授 河江肖剰 先生

座長：創立記念事業実行委員長 大道道大先生



講師 河江先生

講師の河江先生は、3D計測技術とドローンを用いて、これまで謎であったエジプトのギザの大ピラミッドの建造方法の調査に取り組み、4,500年前に起きた出来事を解明しようとされており、多くのテレビ番組に出演するなど、エジプト文明についての知見を広めている。講演では、古代エジプトにも医者（歯医者）の存在が確認されており、どのような病気があったのか、病気になったときにどのように治していたのか、しかも不老、長生きすることが求められ、永遠の生命のために古代エジプトの象徴としてのピラミッドが建造されたとして、ミステリアスな興味深い解説が展開された。



第3部 記念祝賀会

開会挨拶：創立記念事業実行委員長 大道道大 先生

お祝いスピーチ

衆議院議員 伊佐進一 先生

参議院議員 松川るい 先生（メッセージ代読）

参議院議員 梅村 聡 先生

日本病院会会長 相澤孝夫 先生



実行委員長 大道先生



衆議院議員 伊佐先生



参議院議員 梅村先生



日本病院会 相澤会長

日本病院会の相澤会長は、私は長く日本病院会の会長をつとめているが、大阪府の先生には驚かされることばかりであるとし、そのエピソードが紹介された。例えば、診療報酬改定が実施されると、病院は対応を変えなければならないケースがあるが、最も早く行動するのが大阪府の病院である。東日本の病院は対応が遅く、石橋をたたいても渡らないことが多い。大阪府がやっているから、あとで行くというケースである。この素早い行動には、いつも驚いている。日本病院会でも、大阪府の先生に相談すれば道が開けるということである。医療と介護の総合展（メディカルジャパン）の催しも東京と大阪で開催しているが、大阪の第1回開会式に出席したところ、大阪府知事、大阪市長はもとより関西の経済界の代表も出席されていたことに大変驚かされた。大阪府のように、みんなと仲良くすれば日本の医療も良くなる。切磋琢磨しながらみんなで進んでいくことが重要である。大阪府の病院協会が70年、50年と続いてきた秘訣はそこにあると考えている。これからも日本病院会と仲良く、切磋琢磨しながら日本の病院を良い方向に引っ張っていききたいので、ご協力をお願いしたい。両協会が今後ますます発展し、加えて会員病院が繁栄し発展するよう祈念いたします。

乾 杯

日本医療法人協会会長 加納繁照 先生

大阪府病院協会創立70周年、大阪府私立病院協会創立50周年、誠におめでとうございます。

大阪の病院団体は公私に関係なくまとまり、大阪府医師会とも仲良くさせていただいています。このようになったのは先達の先生方のご努力のお蔭であり、深く感謝申し上げる次第でございます。昭和37年には、現在の四病協の一つである全日本病院協会が大阪で生まれ、平成17年には社会医療法人協議会が発足しています。その意味で大阪府は病院団体のメッカ、聖地とも言えるところです。今後ともエネルギッシュな大阪において、相澤会長のご挨拶にもあったように、素早い行動を取る大阪の病院団体が一つになって、オール大阪で活躍し、ひいては日本のあるべき医療を牽引していきたいと考えています。皆様方のご協力とご支援をお願いします。

大阪府病院協会と大阪府私立病院協会のますますの発展を祈念して高らかに杯を上げました。



アトラクション

OSK日本歌劇団のスペシャルショー

華やかでエネルギッシュな、名物のラインダンスをはじめ、朝ドラ「ブギウギ」に因んだ楽曲と踊りが約20分間にわたり行われた。

中締めのご挨拶

大阪府病院協会副会長 宮本裕治 先生

多くの皆様に式典・祝賀会にご参加いただいたことにお礼のご挨拶を述べるとともに、今後の更なる発展を祈念して一本絞めを行ない、閉会となった。



一般社団法人 大阪府病院協会 創立70周年 合同記念式典
一般社団法人 大阪府私立病院協会 創立50周年



記念式典



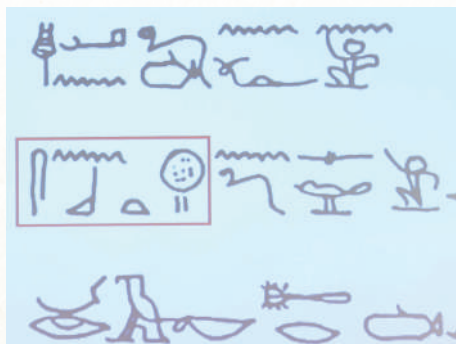
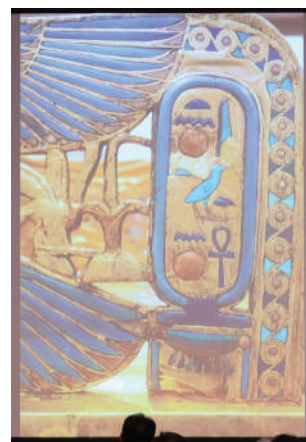
主催者



ご来賓



記念講演



祝賀会







■OSKスペシャルショー



■ 中締め



大阪府病院協会役員名簿 （令和6年6月12日～ 令和8年定時総会の日）

役職名	氏 名	病院名・役職名
会 長	木 野 昌 也	北摂総合病院理事長
副 会 長	山 本 時 彦	山本第三病院理事長
〃	宮 本 裕 治	大手前病院長
〃	大 道 道 大	森之宮病院理事長
理 事	加 納 繁 照	加納総合病院理事長
〃	坂 本 勇二郎	坂本病院理事長
〃	木 野 稔	大阪旭こども病院理事長
〃	行 岡 正 雄	行岡病院理事長
〃	河 合 泰 博	佐藤病院長
〃	伊 原 郁 夫	さくら会病院理事長
〃	牧 恭 彦	おおさかグローバル整形外科病院理事長
〃	河 崎 建 人	水間病院理事長
〃	多 田 正 知	向山病院理事長
〃	馬 場 武 彦	馬場記念病院理事長
〃	古 川 福 実	高槻赤十字病院名誉院長
〃	松 浦 成 昭	大阪国際がんセンター総長
〃	亀 山 雅 男	ベルランド総合病院理事長
〃	坂 井 義 治	大阪赤十字病院長
〃	島 俊 英	大阪府済生会吹田病院長
〃	多 根 一 之	多根総合病院理事長
〃	西 川 節	守口生野記念病院長
〃	西 口 幸 雄	大阪市立総合医療センター理事長
〃	藤 原 寛	淀川キリスト教病院長

役職名	氏 名	病院名・役職名
理 事	大 里 浩 樹	堺市立総合医療センター院長
〃	澤 芳 樹	大阪警察病院長
〃	高 岡 秀 幸	高槻病院長
〃	田 村 茂 行	八尾市立病院総長
〃	中 尾 和 民	河内総合病院長
〃	福 田 和 彦	大阪府済生会野江病院長
〃	松 村 泰 志	国立病院機構大阪医療センター院長
〃	宮 崎 俊 一	大阪府済生会富田林病院長
〃	稲 垣 暢 也	北野病院理事長
〃	北 川 一 夫	市立吹田市民病院理事長
〃	河 崎 敦	河崎病院長
〃	藤 野 裕 士	市立豊中病院総長
監 事	大 野 良 興	大野記念病院理事長
〃	宮 浩 久	東淀川病院長
名誉会長	大 道 學	社会医療法人大道会会長
〃	小 川 嘉 譽	多根総合病院会長
〃	今 岡 真 義	医療法人警和会特別顧問
〃	福 原 毅	ベルランド総合病院名誉院長
〃	佐々木 洋	八尾市立病院特命総長
顧 問	茂 松 茂 人	日本医師会副会長
〃	加 納 康 至	大阪府医師会会長
〃	山 崎 武 徳	第一法律事務所弁護士
参 与	西 野 誠	大阪府健康医療部長

合同 創立記念事業 実行委員

委員長：大道道大（大阪府私立病院協会副会長・森之宮病院理事長）

（大阪府病院協会）

木野 昌也（会長・北摂総合病院理事長）
山本 時彦（副会長・山本第三病院理事長）
宮本 裕治（副会長・大手前病院院長）
矢野 雅彦（副会長・市立吹田市民病院理事長）
古川 福実（理事・高槻赤十字病院名誉院長）
西口 幸雄（理事・大阪市立総合医療センター
理事長・病院長）
田村 茂行（理事・八尾市立病院総長）

（大阪府私立病院協会）

加納 繁照（副会長・加納総合病院理事長）
馬場 武彦（副会長・馬場記念病院理事長）
多根 一之（常任理事・多根総合病院理事長）
牧 恭彦（常任理事・おおさかグローバル整形
外科病院理事長）
河崎 敦（理事・河崎病院院長）
森本 義彦（理事・東住吉森本病院理事長）

大阪府病院協会70年史 編集委員会

委員長：山本 時彦（副会長・山本第三病院理事長）
委員：宮本 裕治（副会長・大手前病院院長）
委員：大道 道大（副会長・森之宮病院理事長）
委員：古川 福実（理事・高槻赤十字病院名誉院長）
委員：西口 幸雄（理事・大阪市立総合医療センター理事長・病院長）
委員：田村 茂行（理事・八尾市立病院総長）

編集後記

編集委員長 山本 時彦

この度、大阪府病院協会創立70周年を迎えるにあたり、記念誌の編集を担当させていただきました。1995年に発刊された本協会40年史に続く発刊となりました。70年という長きにわたる歴史を振り返り、協会が成し遂げてきた数々の実績と、地域医療への貢献を再認識することができました。また、この記念誌を通じて、多くの関係者の皆様に支えられながら歩んできた歴史を伝えることができたことを、心より嬉しく思っております。

本協会は1955年の設立以来、病院相互の連携強化と医療の質の向上を目指し、多くの課題に取り組んでまいりました。時代とともに医療を取り巻く環境は大きく変化し、高齢化の進行や新型コロナウイルスなどの新興感染症への対応など、医療機関に求められる役割も多様化しています。いかなる環境であろうと、協会は会員病院とともに、常に患者中心の医療を実践しつつ、地域医療の充実に向け邁進してまいりました。そして、70年という節目の年を迎え、これからも我々の使命は変わることなく、地域住民の健康と福祉を守るために尽力し続けることです。この記念誌が、今後の活動の原動力となり、次の100年に向け更なるスタートを切るための一助となることを願っております。

最後に、本誌の編集・制作にご尽力いただいた関係者の皆様、貴重な資料の提供や寄稿をお寄せくださった皆様に、心より御礼申し上げます。

大阪府病院協会70年史

発行日：令和7年5月1日

発行所：一般社団法人 大阪府病院協会

〒543-0074 大阪市天王寺区六万町4番11号

TEL 06-6776-1621 / E-mail info@oha.or.jp

制作：はまや印刷株式会社

（非売品）